

## 九鬼周造年譜

- 明治21年2月 15日九鬼隆一の四男として東京市芝区芝公園14号19番地に出生。  
38年3月 東京高等師範学校附属中学校卒業。  
9月 第一高等学校入学。  
42年7月 同上卒業。  
9月 東京帝国大学文科大学入学。  
45年7月 同上卒業。  
大正元年9月 東京帝国大学大学院入学（特選給費生）。  
10年7月 同上退学と同時に文部省嘱託となる。  
10月 ヨーロッパへ遊学に出る。  
大正11年10月～12年9月ハイデルベルク大学  
14年10月～昭和2年3月ソルボンヌ大学  
2年4月～2年10月フライブルク大学  
2年11月～3年5月マールブルク大学  
14年4月 「巴里心景」匿名 S.K. (明星) : ( ) は発表雑誌  
9月 「巴里の小曲」 S.K. (明星)  
12月 「巴里の窓」 S.K. (明星)  
15年1月 「巴里心景」 S.K. (明星)  
10月 「巴里の寝言」匿名小森鹿三 (明星)  
昭和2年4月 「破片」小森鹿三 (明星)  
3年 『Propos sur le temps』 P. Renouard.  
4年1月 帰国。  
4月 京都帝国大学文学部講師。  
5月 「時間の問題」 (哲学雑誌)  
5年1・2月 「いきの構造」 (思想)  
3月 「仏蘭西哲学の特徴」講演。  
「押韻について」匿名小森鹿三 (冬柏)  
11月 『「いき」の構造』岩波書店  
6年4月 「形而上学的時間」 (朝永博士還暦記念哲学論文集)  
10月 「日本詩の押韻」 (大阪朝日新聞)  
7年11月 「偶然性」によって文学博士の学位を得る。〔注1〕  
「形式と実質」 (雄弁)  
8年3月 京都帝国大学助教授。  
「実存の哲学」 (岩波講座哲学)  
9年6月 「夢を語る」 (東京朝日新聞社)  
10月 「我が人生観」 (理想)  
10年3月 京都帝国大学教授：哲学哲学史第四講座担当。  
10月 「松茸」 (大阪朝日新聞)

- 12月 『偶然性の問題』岩波書店
- 11年 2月 「偶然の諸相」(改造)  
「藍碧の岸の思ひ出」(文藝春秋)
- 5月 「外来語所感」(東京朝日新聞)  
「村上氏の批評に答ふ」(東京朝日新聞)
- 6月 「哲学私見」(理想)
- 7月 「袷園の枝垂桜」(瓶史)
- 8月 「書齋漫筆」(文藝春秋)
- 9月 「私に力を与へしものは何か」(実業之世界)
- 10月 「如是我觀太閤秀吉」(歴史公論)
- 11月 「日本的性格に就て」(龍谷大学新聞)
- 12年 1月 「青海波」(大阪朝日新聞)
- 2月 「日本的性格」(思想)
- 4月 「風流に関する一考察」(俳句研究)
- 5月 「山部赤人短歌の批評」(文学)
- 7月 「一高時代の旧友」(東京朝日新聞)  
「飛驒の大杉」(瓶史)
- 10月 「時局の感想」(文藝春秋)
- 13年 2月 「京の冬」(文藝)
- 3月 「自分の苗字」(文藝春秋)  
「巴里にありし頃」(新万葉集 卷三)
- 4月 「藝術と生活との融合」(短歌研究)
- 5月 「情緒の系図」(中央公論)
- 10月 「人間学とは何か」(人間学講座)
- 14年 2月 「驚きの情と偶然性」(哲学研究)
- 4月 「偶然と驚き」(ラジオ講演)
- 6月 「近世哲学の創始者」：創元社版『デカルト選集』推薦の辞
- 8月 旧満州国及び中華民国へ出張。
- 9月 帰国。  
『人間と実存』岩波書店
- 10月 「浜田総長の思出」(浜田先生追悼録)
- 12月 「二千六百年の前夜」(大阪朝日新聞)
- 15年 11月 「文学の形而上学」(河出書房：新文学全集 第一卷)
- 16年 2月 「ベルグソンの思ひ出」(京大新聞)
- 3月 「回想のアンリ・ベルグソン」(理想)
- 4月 「岩下壮一君の思ひ出」(カトリック研究)
- 5月 6日午後11時50分京都府立医大で逝去。享年満53才。  
11日遺言により洛東鹿ヶ谷法然院にて告別式。戒名、文恭院徹誉周達明心居士。
- 6月 22日法然院境内の墓に納骨。〔注2〕
- 9月 『文藝論』岩波書店
- 10月 『をりにふれて』岩波書店



- 17年11月 『巴里心景』 甲鳥書林  
19年11月 『西洋近世哲学史稿』上 岩波書店  
23年5月 『西洋近世哲学史稿』下 岩波書店  
32年6月 『現代フランス哲学講義』 岩波書店  
41年3月 『Le problème de la contingence』 東大出版会：『偶然性の問題』を  
澤瀉久敬氏がユネスコの企画の一つとして翻訳したもの。  
51年2月 『九鬼周造文庫目録』 甲南大学

〔注1〕 一般に学位論文は昭和10年の『偶然性の問題』だと言われているが、事実はこの「偶然性」という謄写版刷66頁の論文である。

〔注2〕 墓碑は昭和20年に完成。その正面の「九鬼周造之墓」と側面のゲーテの詩「見はるかす/山のいただき/梢には/風も動かず/鳥も鳴かず/待てしばし/やがて汝も休まん」は故西田幾多郎博士の絶筆である。訳も西田博士が成された。

(この年譜は澤瀉久敬氏の御厚意により『をりにふれて』の年譜を使わせていただいた。)